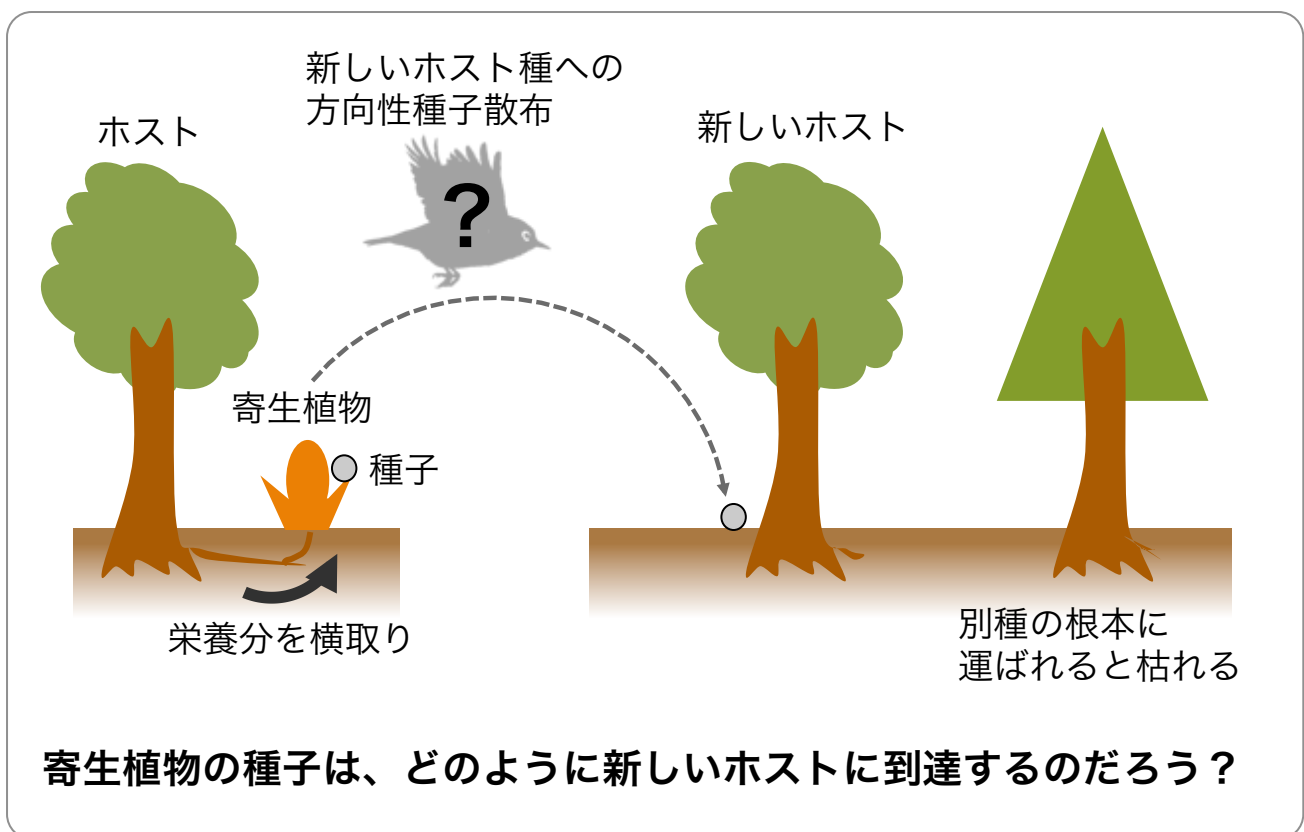


# 全寄生植物ヤッコソウの 鳥による方向性種子散布の検証

九州大学 生態科学研究室 D1 田川 一希

## はじめに

寄生植物は、生きていく上で必要な栄養分や水分を、ホストから得て生活します。そのため、ホストの存在なしには生きていくことができず、種子散布の際には、ホストへの方向性を持った散布を、どうにかして達成する必要があります。ヤドリギなど寄生植物の種子散布では、鳥が関わっている例が知られていますが、鳥が方向性散布をどのように手助けしてくれるのか、その具体的なメカニズムについてはほとんど分かっていません。



四国・九州・屋久島・沖縄などに自生するヤッコソウは、スダジイの木から栄養分を得る寄生植物です。葉緑素を失っており、肌色で「やっこさん」のようなおもしろい構造をしています。ヤッコソウは開花期と種子散布期に大量の薄い蜜を分泌し、メジロなどの小型鳥類がその蜜を求めて訪れることが分かっています（表、三原ら 未発表）。**鳥類は、ホスト（スダジイ）にちゃんと種子をとどけてくれるのでしょうか？ また、それはどのようなメカニズムによるのでしょうか？**

この研究では微小なチップをヤッコソウの果実内に入れ、鳥による方向性種子散布を検証します。



表. 訪問を確認した鳥類

和名

メジロ  
ウグイス  
シロハラ  
ヒヨドリ  
コマドリ

(三原ら 未発表)

## 調査内容

ヤッコソウの種子散布の時期にあたる12月上旬～翌1月にかけて、蜜の中に微小なチップ（またはビーズ）を入れ込み、野鳥に採餌・散布させる。その後、野鳥がフンをした場所を受信機で特定し、ホストへの方向性散布がなされているかを確認する。合わせて、ヤッコソウを訪問した後の、野鳥の行動を観察する。調査は、屋久島及び奄美大島で行うことを予定している。

## 必要経費など

バードリサーチでご支援いただいた折には、支援金を微小チップおよび受信機の購入、調査地への旅費として使わせていただきます。また、研究結果の日本生態学会、種生物学会、日本鳥学会での発表、国際誌への投稿を予定しています。